

目次

「豊臣期大坂図屏風」について	9
シンポジウム講演録	15
シンポジウムの構成	16
芸術における異文化交流—エッゲンベルク城での新発見と日本の美学からの考察	18
Peter Pakesch (ペーター・パケシュ 州立博物館ヨアネウム総監督)	
エッゲンベルク城と「インドの間」	21
Barbara Kaiser (バーバラ・カイザー エッゲンベルク城博物館主任学芸員)	
グラーツ市の大坂城図屏風が作画された経緯についての考察	27
Franziska Ehmcke (フランチスカ・エームケ ケルン大学教授)	
17世紀オーストリア貴族にとっての「大坂図屏風」の価値	33
朝治 啓三 (関西大学教授)	
「豊臣期大坂図屏風」に描かれた堺	41
長谷 洋一 (関西大学教授 / なにわ・大阪文化遺産学研究センター研究員)	
「豊臣期大坂図屏風」(グラーツ本) 住吉祭の行列	48
黒田 一充 (関西大学教授 / なにわ・大阪文化遺産学研究センター研究員)	
新出「大坂図屏風」の系譜	55
狩野 博幸 (同志社大学教授)	
「豊臣期大坂図屏風」に描かれた大坂城とその構図	58
北川 央 (大阪城天守閣研究副主幹 / なにわ・大阪文化遺産学研究センター研究員)	
パネルディスカッション (9月28日)	63
パネルディスカッション (9月29日)	77

報告書について

1. 本報告書は、2007年9月28日に関西大学尚文館にて開催した国際シンポジウム「新発見「豊臣期大坂図屏風」の魅力 —オーストリア・グラーツの古城と日本—」および、2007年9月29日に大阪産業創造館(大阪市中央区本町)にて開催した朝日・大学パートナーズシンポジウム「新発見「豊臣期大坂図屏風」を読む」の記録集である。
2. 講演録・パネルディスカッションについては、日本語訳のみを掲載した。
3. Peter Pakesch氏、Barbara Kaiser氏、Franziska Ehmcke氏の講演録については、「新発見「豊臣期大坂図屏風」の魅力 —オーストリア・グラーツの古城と日本—」(9月28日)の講演録である。
4. 本報告書は、サントリー文化財団の研究助成によるものである。
5. 本報告書の編集は内田吉哉(なにわ・大阪文化遺産学研究センター特別任用研究員)が担当した。